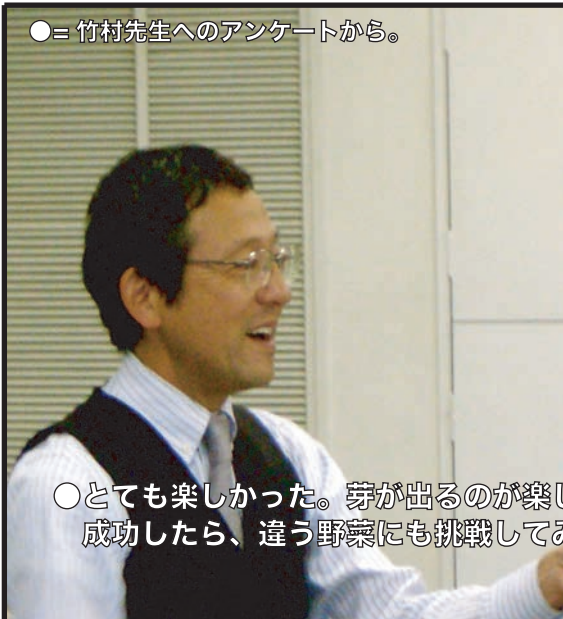


食育ネットしずおか 第6回定例会

平成21年10月15日(木) アイセル21会議室

●= 竹村先生へのアンケートから。



○とても楽しかった。芽が出るのが楽しみです。自分で育てたことがないので、がんばります。成功したら、違う野菜にも挑戦してみたいです。(40代女性)



●家庭菜園に興味がありました。(50代男性)

今回の食育ネット定例会は、著書「図解・おもしろ子ども菜園」(農山漁村文化協会刊)が話題の浜松視聴覚特別支援学校教諭・竹村久生先生をお迎えして、先生が取り組まれている身近な材料を利用した菜園作りの実践と、会員のみなさんが取り組まれている食育活動での問題点を話し合う意見交換会を行いました。菜園作りの実践では、竹村先生の楽しいお話のおかげで、みなさんあっという間に牛乳パックの加工をこなし、種植えまで行うことが出来ました。意見交換会では、各地で農業体験事業に関わる方々から、人を集めるための苦労についてのお話が多く出されました。



●これからの我が家に牛乳パックの鉢がいくつ並ぶかが楽しみです。(70代女性)



●子供たちへの対応が参考になりました。近所の親子に教えてあげたいと思います。(60代男性)



竹村先生の講演から

最近の学校には畑がありません。栽培する道具も無い、教師には栽培の知識も無いし、時間も無いんです。また、きゅうりやトマトが畑で実っているのを見たことがないという子供が本当に増えていきます。そこで、いかに手をかけないで作物を栽培するかを考え、提案してきました。

農家の人に、どうやって栽培すれば良いか尋ねたことがあります。農家の人は、「作物は育ててくれる人の足音を聞きながら育つから、毎日通っていれば野菜がわか

つてくれる。そうすれば良いものが出来るんだよ」と教えてくれました。子供と一緒にですね。確かに毎日通っていると、水の加減や作物につく虫の事など、いろいろわかってくるんですね。

ところが、学校で生徒に畑に行こうと言っても、行かないんですね。その気が無いので、どうしたかというと、生徒が畑に行かないなら、畑に生徒の方に来てもらう、足音を聞けるところに野菜に来てもらう。そこで育てればいいんじゃないかと。それが当たったんです。子どもが変わったんです。子どもが「虫がついてるんだけどどうしたらいいの?」と聞いてきます。野菜もいつも目の届くところであれば、子どもの考え方が変わってきます。(私はそれを「野菜のペット化」と呼んでいます)

そこで、いろんな作物を作ってみようということになりました。誰でもできる栽培方法が必要ではないかというのとやってきました。その中の一つが牛乳パックのプランターなんです。

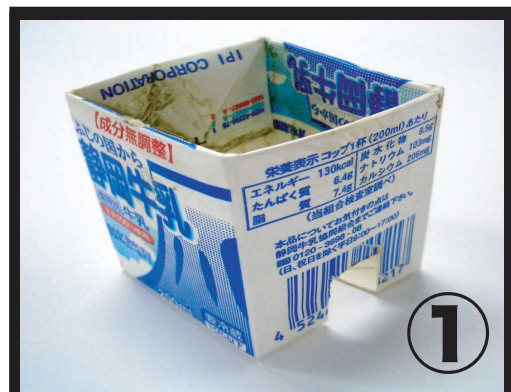


学校では教室のベランダが、一日中陽当たりがよくて、虫もあまり来ないし、鳥もほとんど来ない、一番いい場所です。

子供なりに工夫をさせるといろいろなアイデアが出てきておもしろいですよ。ミニトマトを作らせたときは糖度を上げるために、アルミホイルを使って日光を集めてみたり、毎日話しかける、つまり自分の吐息「二酸化炭素」をあてて光合成を促進させる、なんていう事をした子供がいました。しかも、みんな効果があるんですね。



毎日畑に出られない… それじゃあ、 畑に来てもらおう！



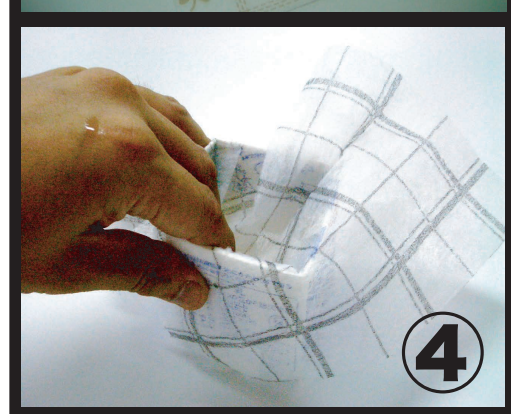
①



②



③



④

よく水洗いした牛乳パックをある程度の高さに整えます。上の部分を内側に折り曲げると強度が確保できます。

(写真①)

次に、パックの底に水を吸い込ませるための穴を開けます。紙が二重になっている部分は残します。(写真②)

100円ショップなどで「エアコンのフィルター」「台所の3角コーナール水切り袋」などとして売っている不織布(ふしよくふ)を、土と一緒にパックに詰めます。(写真③・④)

受け皿(お総菜のトレイや納豆のパ

ックなどでOK)を用意します。(写真⑤)

種まきは、たくさんまきすぎないように注意しましょう。種をまいたら上から土をかぶせ、軽く押さえて落ち着かせます。(種の種類によって違うので注意)

水やりは受け皿から。上から直接水をかけると種が流れてしまいます。土が充分に湿ってきたらパックを受け皿から出します。受け皿にたまった水は栄養分がしみこんでいるので、すぐに捨てずに何度も使うのがコツです。

上手に育てるためのポイント

○ 良い土・良い種を用意する

園芸店・ホームセンターなどで売っている用度を使いましょう。

○ 日当たりの良いところに置く

ペットボトルを上下半分に切ったものを上からかぶせれば、「温室」の出来上がりです。

○ 水やりは下から・水は捨てない



⑤